第16号
有機健康つうしん
遠赤青汁通信（H22.4.1 発行）

ＩＴを活用しお客様の安心、安全に努めます。

遠赤青汁株式会社
〒791-0398 愛媛県東温市則之内甲2225-1
TEL フリーダイヤル 0120-148-162
ホームページ http://www.enseki.com

ＩＴ経営力大賞
全国商工会連合会会長賞を受賞。

このたび、経済産業省「中小企業ＩＴ経営力大賞２０１０」において、「全国商工会連合会会長賞」を四国で初めて受賞致しました。

「中小企業ＩＴ経営力大賞」とは、経済産業省が関係機関の共催・協力のもとに主催する平成十九年度に創設された表彰制度です。優れたＩＴ経営を実現し、かつ他の中小企業がＩＴ経営に取り組む際の参考となるような中小企業や組織に贈られています。当社は二００七年、二００八年と連続して「ＩＴ経営実践認定企業」を受賞しています。

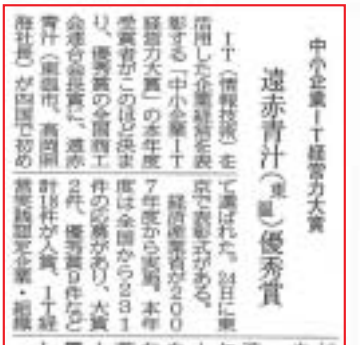
全国商工会連合会会長より、表彰状を受け取る高岡。

遠赤青汁(株)では、創業当初から、有機農法で素材のケールを栽培してきました。有機ＪＡＳ認定を申請する際には圃場の日々の記録が必要です。こうした管理もすべてデータ化され保存されています。圃場単位で土作りから、収穫するまでの栽培履歴など、ひとつひとつの記録が整備され、管理されています。お客様からのお問い合わせの際にも、圃場や農場からの集約されたトレーサビリティが重要な役目を果たしています。

こうした日々の管理などの仕組みや取り組み、農商工連携事業等に表される地域での連携事業の広がり等が受賞のポイントになったのではないかと考えています。

偽装問題発生以後、品質の管理はお客様の信頼に直結するものと思い取り組みを強化してまいりました。今後も皆様に安心してお買い上げいただける商品作りを続けていきたいと思います。ありがとうございました。

（代表取締役　高岡照海）


中小企業ＩＴ経営力大賞

遠赤青汁（東温）優秀賞

ＩＴ（情報技術）を活用した企業経営を表彰する「中小企業ＩＴ経営力大賞」の本年度受賞者がこのほど決まり、優秀賞の全国四工会連合会会長賞に、遠赤青汁（東温市、高岡照海社長）が四国で初めて

7年度から実施、本年度は全国から231件の応募があり、大賞22件、優秀賞9件など計116件が入賞、1件経営戦略実企業・振興に116件が選ばれた。

同社は青汁などの製造記録や、原料となるケールの栽培記録をデータベース化。使用した肥料の種類や加工日などの情報を効率的に管理、参照できるトレーサビリティー（生産履歴）システムを構築した。

農産のほかの受賞・認定は次の通り。

中小企業庁長官賞　信部一郎（愛媛青汁）マーケ企業実践認定企業　清水青汁（新居浜市）

無事に式典を終えてホッとした表情の高岡。
ありがとうございました。

賞

個人賞として「中小企業庁長官賞」を営業企画部渡部一恵が同時に受賞させていただきました。
※女性では初めての受賞です。

愛媛新聞2010年２月10日

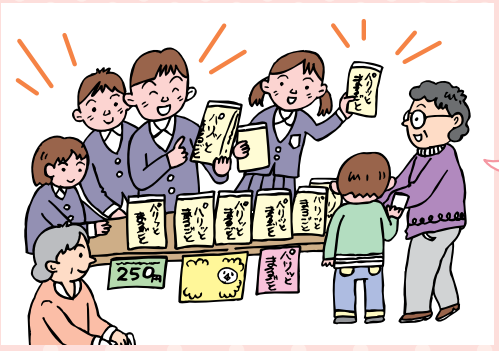
■全国商工会連合会会長賞とは？
優れたＩＴ経営を実践し、かつ、経営やＩＴ導入などにおいて特徴的なＩＴ経営を実践する中小企業が優秀賞に選ばれる。「全国商工会連合会会長賞」は先進性・独創性のあるＩＴ活用の取り組み、小規模企業で特徴的なＩＴ経営を実践している企業に贈られる。

地元小学生が体験販売。

昨年十一月三十日に、松山市の大街道商店街で、松山市内の小学校五年生による販売体験会が行われました。

遠赤青汁は、玄米をベースにした「パリッとまること」を商材として提供しました。子供達は、販売するために何が必要か考え、ポップも自分たちで書き、販売に挑戦しました。事前には「健康になるってどういうことですか？」「商品の特徴ってなんですか？」と質問があり、販売についてのアドバイスをしました。

販売当日、なんと一時間で完売。営業社員顔負けの販売力にびっくりです。「これからも愛媛県の特産品として人気が出る商品を作って下さい」と、激励を受けました。こちらこそ、ありがとうございました。



店長、副店長など役職を決めてチームで工夫して販売。頑張りましたね。

四国の担い手が八〇人も
耕作放棄地の取り組みを見学に、四国中から農家の担い手が集まりました。

去る一月二九日に四国の認定農家の方々が総勢八〇名、農場を見学に来られました。

愛媛県の耕作放棄地は、五二五四ヘクタールで耕作放棄地率は十一・五％となっています。これは中国四国地域の一〇・二％、全国の五・八％を上回っており、全国で七番目に高い数値となっています。

やや緊張気味に説明する工場長

耕作放棄地の悩みは、全国的に広がっています。耕作放棄地を開墾し農地に再生する、弊社の地域再生事業も今年で十年を迎えます。耕作放棄地から転換された有機圃場も当初の十倍となりました。こうした取り組みを学び、地元で生かして行こうと、多くの担い手の方々にご参加いただきました。

今回、見学コースが多々用意されている中で、弊社のコースが一番人気だったそうです。それだけ、耕作放棄地の利用に関心が深いと言う事でしょう。

大型バスニ台と、マイクロバスニ台に分譲して農地の見学を行っていただきました。

農地再生に挑む

「農地再生に挑む」では、放置された農場を再生し、有機圃場として生まれ変わる様子をシリーズとしてお伝えしています。

ニンニクの玉は、土の中で冬を越して成長します。霜が降りても、葉は色を変えません。寒さにも強い作物です。

栽培されている愛媛県西条市丹原町は、四国最高峰石槌山の麓。水はけの良い扇状地の地形を生かした果樹栽培が盛んでした。（あたご柿が特産）しかし、農家の高齢化に伴い、梯子をかけての収穫は危険を伴います。木に登らずに収穫しても上を向き続けての作業は腰に負担がきます。「身体が続かんようになった」。果樹栽培を諦めて、栽培を転換しようと思っても土の中からゴロゴロと出てくる石をすべて拾って農地に戻す事は大変な作業です。結局、やむをえず農地を放置する農家が増加、耕作放棄地が増えていきます。

先祖代々続けてきた土地を手放す事はできない。しかし、農業として続ける事もできない。こうして増える耕作放棄地は、地域の悩みとなっています。遠赤青汁(株)では耕作放棄地を借り受け、石拾い、施肥を繰り返し行って農地に戻していく地域再生事業を、二〇〇〇年からスタート。十年目を迎え、有機認定圃場も約十倍に広がりました。

昨年からケール、ウコンに加えてニンニクが栽培されています。今年は昨年収穫したニンニクで割れてしまったものを残して種として利用しました。生れも育ちも愛媛県西条市産まれの有機ニンニクが今年から出荷できます。

今年は種を植える時期も少しづつずらしてみたり、種の植え方も変えて、いろいろと試しながら植えてみました。昨年、初めてニンニクを収穫しましたが、まだまだその成長は奥が深い。植える時にどうやったら商品効率が良いのだろうか、試行錯誤しながらより良いものを研究しています。

ニンニクの葉は、マルチの穴から出ています。その横から雑草も顔をだしています。

ニンニク自体を傷つけないで、周囲の雑草を抜いていくので手間も時間もかかります。

ニンニクはマルチに開けられた穴が近いので、雑草もすぐに広がります。腰をかがめての作業が続きます。

ニンニクが育ってくると、マルチの穴からニンニク以外の葉っぱが伸びてきます。これは雑草。雑草をそのままにしておいては、肝心のニンニクが育ちません。ひとつひとつ手で草を引いて行く作業を行います。農場に写真を撮りに出かけた際も、その緊張感に驚きました。一生懸命に、黙々と草を引いていきます。

何十万個も空いているマルチの穴から出てくる雑草。なかなか一日や二日で終わる作業ではありません。でも、丸々と太ったニンニクに育てるためにはこうした作業が欠かせません。

お客様においしくて栄養価の高い、安全な食品をお届けするために、農場のスタッフも真剣です。今年も美味しいケール、おいしいニンニクを心をこめてお届けします。

ニンニクの葉の目線で見ると、作業している人はほとんど葉の中に埋もれて見えます。雨が降ると、土の寒さが伝わってきて辛い。

木下さんの ゆうきの話 ～ニンニクは最後まで～

ニンニクは、乾燥し保管し、年中の出荷が出来るように準備されています。しかし、収穫したニンニクが全て出荷できる訳ではありません。

人間でも素直に育ったり曲がったり、子供は思ったようには育たないもの。ニンニクも、大事に大事に育てていても、出来てしまうのが玉割れです。

「ちゃんと言うた通りに植えんから、割れてしまうのよ」

種イモを植える時の深さが足りなかったりすると、地表に近すぎて光が当り過ぎて赤くなったり、玉太りが一定にならず割れてしまうそうです。収穫してはじめて植える時の注意が身にしみます。

割れたニンニクは捨ててしまうの？もちろん、丸い球で出荷する生のニンニクとしては利用できません。しかし黒ニンニクとしてなら、割れていても大丈夫。ひとつひとつ分割して、黒ニンニク用として工場に運ばれていきます。

「ニンニクは捨てるところがないんよ」

木下さんも、育てたニンニクがまた、新たな命を吹き込まれて生まれ変わるのを喜んでいます。

「でも、今年は割れが少ないはずだから」とニヤリ

えっ・・・（汗）

今年、私が植えたニンニクは大丈夫かな？めちゃめちゃ気になってきました。本当、割れずに育ってほしいですね。

EVENT

「食品開発展2009」（二〇〇九年十月十四日～十六日）「中小企業総合展」（二〇〇九年十一月四日～六日）に出展してきました。

食品開発展は「健康と安全」に関するアジア最大の技術展として国内はもとより海外からも関心を寄せられる、食品分野の研究・開発、品質保証、製造技術担当者向けの専門展示会です。遠赤青汁㈱は毎年出展しています。今回は、遠赤青汁V1ゴールドや石けんの他、今年新発売の黒にんにくを出品し、皆様に試していただきました。

特に黒にんにくは、素材のにんにくから有機栽培し、加工、販売まですべて自社で行っている、徹底した取り組みが関心を集めました。

来場者の質問に真剣な面持ちでお答えする高岡

中小企業総合展は、経営革新等に果敢に取り組む中小企業が、自ら製造、開発した新製品、サービス、技術等を一堂に介し展示することにより、販路開拓、市場創出、業務提携といったビジネスマッチングを促進することを目的として開催されています。

遠赤青汁㈱は、いわゆる農・工・商が連携して、安全な素材確保、商品の開発から販売まで一貫して行っています。地元の素材を生かした青汁や石けん、黒にんにくなど多彩な商品ラインナップが、マスコミにも注目されました。

地域発・全国へ 連載スタート！

遠赤青汁のWeb活用レポート！

弊社のインターネット通販においての苦労話や、嬉しかった話、販売の工夫など体験談を交えて紹介する雑誌連載がスタートしました。

中小企業のIT入門マガジン「COMPASS（コンパス）」は全国に無料配布されているITの専門誌。企業経営に役立つ情報誌として、広く中小企業に利用されています。年四回発行。

以前、取材に来ていただいた際に弊社のwebの活用法について興味を持っていただき、今回の連載のきっかけとなりました。

COMPASS　2010年冬号
会社紹介（右）とともに掲載されました。
HPからダウンロードして記事はご覧いただけます。
http://www.compass-it.jp/

連載は営業企画部渡部が担当します。毎回テーマが違うので、文章をまとめるのに苦労している様ですが、良い経験になるのではと期待しています。

（春号、夏号、秋号と全四回の連載です。）

ホッと一息

四国八十八箇所・二十七番札所　神峯寺（こうのみねじ）

高知県安芸郡安田町唐浜2594

記紀の時代、三韓出兵の際に戦勝を祈願して、神宮皇后によって創建された神社（現在の神峯神社）が起源とされています。

●弥太郎の母

江戸時代末期、岩崎弥太郎の母親が、貧しい家庭に生まれた彼の出世を願い、この神峯寺に21日間欠かさず通いつめたというエピソードが残されています。現在の安芸市の生家からは20km以上も離れており、わけてもこの寺までの山道は「遍路泣かせ」とよばれる急坂が続いています。よほどの覚悟がないと達成できないのではないでしょうか？この気性の強さが受け継がれたのでしょうか、それともご利益があったのでしょうか、三菱グループ発展の原型はここにあるのかもしれません。

高知県安芸市にある岩崎弥太郎像。彼の旧家も保存されています。

現在、境内には檀家の男性によって庭園が造成されており、きつい山道や石段を登ってきた遍路の心をなごませてくれています。境内からは眼下に大平洋も見渡せ、雄大な風景に圧倒されます。

～平和の桜、陽光を世界へ～

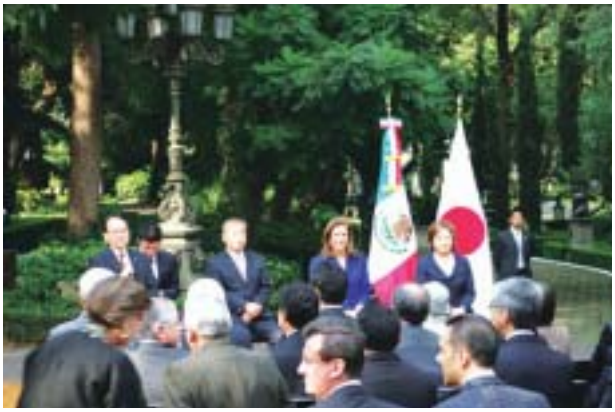
メキシコ・日本　交流四百周年を記念して

去る二〇〇九年十月二十九日から十一月五日まで、メキシコへ陽光桜の植樹に参りました。メキシコと日本の交流四百周年を記念して、千本の陽光を寄付するためです。

メキシコとの時差は約十五時間。日本を出発して、現地に到着するまで直行便で約十三時間かかります。四百年前は船で行ったのですから、昔の人は偉いですね。

今回は、現地の日本人会「日墨協会」の皆様のご協力で、日本大使館特命全権大使の小野様にもご出席いただき、メキシコ市内に植樹を行う予定でした。しかし、現地に着くなり高岡にビッグニュースが飛び込んできました。

日墨協会と日本さくら交流協会が四百周年記念の植樹を行う。市民レベルでのこうした交流に感動された大統領に、「ぜひ官邸へお越しください」と招待されたのです。



メキシコ大統領官邸での記念式典（青い服の女性が大統領夫人）

これには高岡はじめ、参加していた日本さくら交流協会のメンバーもびっくり。急遽、高岡夫妻のみ予定を延ばすことになり、十一月三日、大統領官邸で植樹を行う事になりました。

メキシコは漢字で書くと『墨西哥』。日墨協会は、日本とメキシコを結ぶ架け橋となって、今回の植樹をサポートしていただきました。

大統領官邸では、カルデオン大統領夫人マルガリータ様をはじめ、外務大臣のエスピノサ様にも参加していただき、記念式典が行われました。

高岡も、「数年先に、（桜）千本がメキシコの大地に根を張り、鮮やかな花を咲きほこらせ、新しい名所となって市民が憩い、安らぐ光景を想い浮かべてみましょう。」と出席者に呼びかけました。

大統領官邸敷地内に記念植樹。高岡が陽光の苗に土をかけます。
この写真は時事通信により、翌日には地元愛媛新聞にも掲載されました。

メキシコ皇太子殿下より「この桜が、両国の友好関係のシンボルとして、今後一〇〇年、そしてさらなる四〇〇年と健やかに育っていくことを期待している」とのお言葉を頂きました。お言葉を賜れるということは、年に一回くらいの貴重な事だそうです。

二〇一〇年に入り、日本でもメキシコ大統領夫妻、天皇陛下ご夫妻をお招きした交流四〇〇周年記念の式典が盛大に執り行われました。その際、皇太子殿下からも、「メキシコでも桜の植樹が行われたそうですね」とのお言葉がありました。日本の皆さまの桜に寄せる気持ちをお届け出来たのではないかと思っています。日墨の交流が、桜の成長と共に広がる事を願います。

大統領官邸正面玄関にて記念撮影。中央大統領夫人、左に高岡夫妻。
右にメキシコ合衆国日本大使館特命全権大使小野様ご夫妻。

■メキシコ・日本交流四百周年

一六〇九年九月、フィリピン諸島総督ロドリゴ・デ・ビベロを長とする一団の船は、ヌエバ・エスパーニャ（当時のスペイン領メキシコ）への帰国途中、千葉県御宿沖で遭難し、村人の献身的な救助により、乗組員三一七人が救出されました。ビベロ一行は地元城主や村人からの暖かい歓迎を受け、その後、徳川秀忠及び徳川家康に謁見しました。翌年、徳川家康がビベロ帰国のため造らせた船はメキシコに向けて出航。ビベロと共に渡航した京の商人田中勝介他二〇数名の日本人は、メキシコを訪問した最初の日本人となりました。

我が国の時の為政者とメキシコからの政府高官が対面し、初めての会談が行われた意義は大きく、二〇〇九年はそれから四百年目にあたります。

（「日本メキシコ交流四百年」ＨＰより抜粋）

小野大使より、年賀状代わりのポストカードをいただきました。
これから陽光桜の成長も見守っていただきたいですね。